

# ひよこばいしの医療

足のたこや角質を専用のカッターで削り取る永徳繁子さん（西宮市林田町（同市立中央病院東棟））



## 神経障害

糖尿病のさまざまな合併症のうち、最初に発症するのは「神経障害」とされる。高血糖が続くと細い血管の中を血液がスムーズに流れなくなり、神経細胞に必要な栄養が行き渡らず、部分的に死滅してしまふ。それが足先など末端のしびれや感覚鈍化を引き起こし、重症化して細菌感染症を起すと足が腐って切斷しなければならぬことも。2009年4月、糖尿病患者向けに足の手入れの専門外来「フットケア外来」を開

したのがきっかけで、全国の病院に広がった。神経が鈍る神経障害は自覚症状を感じにくく、発症が遅れがちだ。検査は3種類あり、アキレス腱をたたいて反射を見る「腱反射」、▽音の共鳴や振動数の実験に使う道具「音叉」を腕や脚に当てて調べる「振動覚検査」、▽皮膚の要色や治りにくい足の傷、就寝中のこむら返りなど神経障害特有の症状の有無の「吉村有の症状の有無」のうち、二つ以上当てはまれば診断が確定する。「死滅した神経細胞は元に戻らないため、一度発症すると完治は難しい。軽微から足をよく観察し、至る危険があると分かっても

一定量のタンパク質が尿に漏れ出す腎症は10年で発症する人が多い」と紅林部長。一方で「2015年、糖尿病治療で大きく変化したのは、合併症の予防薬に力が入られるようになったこと」。フットケア外来の開設は08年、厚生労働省が糖尿病による神経障害で足に潰瘍や閉塞性動脈硬化症などがある患者に対し、専門の医師や看護師が療養指導を30分以上行った場合、診療報酬を認めるように

「同病棟はフットケア外来は現在、看護師6人、7人が担当している。外来ではまず、高血糖が続くと足に異常が起るのかについて説明。患者と一緒、足の裏や指の間をやけど、乾燥による皮膚のひび割れなどにも注意が必要だ」

■行動にも変化

同病棟はフットケア外来の開設から3カ月後、継続的に受診している患者36人を対象にアンケートを実施した。足

## 壊疽による切断防止

フットケア外来 手入れ法など指導

### 靴・靴下選びのポイント



らうことが重要と指摘する。神経障害が重症化して細胞が死んで腐ってしまう「壊疽」を足を切断している患者は、年間3千人以上と推定される。足に傷ができる原因のうち、靴擦れが最多という統計もある。「健康な人なら多少の靴擦れは自然に治ることが多いが、糖尿病患者の場合は化膿して傷がどんどん広がったり、壊疽につながったり

観察や手入れの方法について、83%の患者が「非常によく分かった」「分かった」と回答。67%が指先足を観察する回数が「増えた」とし、44%が足を洗う回数が「増えた」と答えた。

紅林部長は「地道な取り組みだが、患者の意識や行動が変わることで、重症化を確実に防げる」と話す。